

発達障害等のある児童生徒に対する道徳科の指導について（例）

学習上の困難さ	集中することや継続的な行動をコントロールすることの困難さ	他人との社会的関係の形成の困難さ
<p>困難さの状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 「聞く・話す」はできても、「読む・書く」が苦手なことが多い。 文字の認識が困難な場合は、画数の多い漢字の識別や相手の表情を見分けることなどが難しい。 	<p>注意欠陥多動性障害 (ADHD) 等</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意持続が短く、態度が変わりやすいため、気まぐれで誠実ではないように見えることがある。 多動性、衝動性により、ルールを守る気がない、安全を軽視していると受け止められることがある。 相手の気持ちを考えない、結果がどうなるのか考えないで始めた行動やうつかりミスにより問題が起ることがある。 ものごとを最後まで注意していないために、結果を記憶していない。「自分ではではない」と主張し、それが嘘やごまかしと思われることがあることがある。 別のことに注意がそれて、期限や待ち合わせなどの約束を守れない傾向がある。 	<p>自閉症等</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを想像することが苦手で、字義通りの解釈をすることがある。 明文化されていないもの、暗黙のルールや一般的な常識が理解できないことがある。 こだわり行動または感覚の過敏により、望ましいと分かっていてもその通りにできないことがある。 誤って学習したこととの修正が困難な傾向がある。
<p>道徳指導上の困難</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み書きの習得については、努力が成果に結びつかない経験的になりやすい。 読書が苦手であり、本を読む習慣がないため、知らない言葉が多い。同年齢の子供であれば理解でき解して予想される場合がある。 自分の気持ちを文字で表現できない（話し言葉で表現できればよい）場合、工夫が必要である。 	<p>注意欠陥多動性障害 (ADHD) 等</p> <ul style="list-style-type: none"> 適度な時間で活動が切り替わり、注意が持続できるようにする。 成長が認められる行動や発言があった場合は、行動や発言のあった都度、評価する。 「あと五分!」「ここまでやったら!」など、短期的で具体的な見通しを示して努力ができるようにする。 必要なことをメモする、掲示する、付箋で示すなどして、単純なミスをしなくて済むようにする。 チェックリストや備忘録、スケジュール表などを用意し活用する。 対話の工夫や幅広い場面での触れ合いをもち、信頼関係を築く。 	<p>自閉症等</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者の心情を理解するために、役割を交代して動作化や劇化を行う。 「○○ですと言ったのは、△さんが『べだ』と思っていたからです」など主語を明確にして説明する。 わかりやすく伝えるために、イラストにしたりせりふを書き込んだりすることができるようになる。 ルールは明文化する。同時に、本人が理解していてもルール等により変えられない場合もあると理解しておく。 最初から正しい知識を伝え、途中で修正する必要のないようにする。また、誤った理解をしていないか適宜確認し、できる限りの修正をする。
<p>指導上の必要な配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉の意味や正しい名称を知らないことが多いので、言葉の意味などを丁寧に伝える。 提示する教材などには、音声による情報を付け加える。 自分の考えを文字で表現したり、文字で書かれた他者の意図を読み取ったりすることが苦手なので、言葉定しない（口頭で答えることも可能とする）。 漢字の習得のみが困難な場合には振り仮名を振る。 	<p>注意欠陥多動性障害 (ADHD) 等</p> <ul style="list-style-type: none"> 適度な時間で活動が切り替わり、注意が持続できるようにする。 成長が認められる行動や発言があった場合は、行動や発言のあった都度、評価する。 「あと五分!」「ここまでやったら!」など、短期的で具体的な見通しを示して努力ができるようにする。 必要なことをメモする、掲示する、付箋で示すなどして、単純なミスをしなくて済むようにする。 チェックリストや備忘録、スケジュール表などを用意し活用する。 対話の工夫や幅広い場面での触れ合いをもち、信頼関係を築く。 	<p>自閉症等</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者の心情を理解するために、役割を交代して動作化や劇化を行う。 「○○ですと言ったのは、△さんが『べだ』と思っていたからです」など主語を明確にして説明する。 わかりやすく伝えるために、イラストにしたりせりふを書き込んだりすることができるようになる。 ルールは明文化する。同時に、本人が理解していてもルール等により変えられない場合もあると理解しておく。 最初から正しい知識を伝え、途中で修正する必要のないようにする。また、誤った理解をしていないか適宜確認し、できる限りの修正をする。

※発達障害には上記以外の障害もあるが本専門家会議において発表された学習障害、注意欠陥性多動性障害、自閉症を中心に作成した。